

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473600557
法人名	社会福祉法人 誠幸会
事業所名	グループホーム 泉の郷上飯田
訪問調査日	平成20年3月15日
評価確定日	平成20年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1473600557
法人名	社会福祉法人 誠幸会
事業所名	グループホーム 泉の郷上飯田
所在地	245-0018 横浜市泉区上飯田町1260 (電話)045-800-3836

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年3月15日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年3月1日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計 27 人
職員数	27 人	常勤 15 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 13 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	11 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	58 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	湘南お茶の水クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームはいずみ中央駅から徒歩15~6分のところにある。もともとは田園地帯であったところが、いずみ中央駅付近が分区分で区役所等が建設されて以来、徐々に新興住宅地として開発が進んでいる。経営母体は社会福祉法人 誠幸会で、社員が登録を含めると400名余と各種福祉施設(特養、ケアハウス、デイサービス等)のネットワークを持つ大きなグループであり、本部には特養、ケアハウス、居宅介護、訪問介護、デイサービス等があり、相互の連携が取れ、グループ内のPCネットワーク、研修体制などについて共通に取り組める強みも持っている。PCネットワークでは、共通のソフトを活用し情報の一体化が図られている。行事等で車で外出する場合には近くのグループ施設のワゴン車やマイクロバスを借用し活用している。ホームは1ユニット9人の3ユニットで、建物は2階建て1Fは系列の知的障害者地域生活援助のグループホーム“たんぼぼ”、グループホームの総合事務室と1ユニット、2Fに2ユニットと云う構成である。それぞれの玄関は独立している。平成19年に理念を「利用者ニーズにあった質の高いサービスと満足の提供、感謝の返礼」と定め、これに続く10ヶ条項目の中に「地域とむすびについて生活する」項目があり、地域密着に心がけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での指摘事項は無かったが、今回は職員のケアに関する「気付き」につき取り組みを開始している。介護の中心を利用者に置いてケアすることは当然、従来も行って来ているが、より一層、利用者の気持ちになってどう感じるかの「気付き」を深めることを進めている。このことは「職員の自覚」が大切と云う視点での取り組みで、例えば資格取得のための勉強で深まる「気付き」や利用者が出来ない理由を考えることによる新たな「気付き」を呼び起すなどあらゆる方策を検討しつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については各ユニットで作成したものを管理者がまとめ、再度各ユニットリーダー経由で周知した。各ユニットリーダーは項目の必要性を認識し、ユニット毎に取り組みを開始している。外部からの第三者の視点は重要と考えており、ガラス張りの介護、普段のケアが平均的に、日常的に行われる体制固めを進めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については、今までは同一法人、同一地域のグループホームは共催で良いとの市の了解が得られているのでグループホーム泉の郷と共催している。この地域の運営推進会議は泉区方式でブロックとして開催され、分科会としてグループホーム毎にテーマに沿った検討をして、再度ブロック合同会議で発表する方式で行われている。グループホーム泉の郷上飯田としては個別の運営推進会議が必要と考えているのでグループホーム泉の郷とも話し合っ行ってきたい。地域密着と云う面では泉の郷グループとして地域に浸透しており地域への貢献は出来ていると云える。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会についてはイベントに併設のゆるやかな形を考えていて、4月には交流会を、7月には夏祭りとの併設を考えている。各ユニット毎にご家族と充分なコミュニケーションが取れている。1日の介護記録をパソコンに入力する体制が出来ていて、この日別介護記録が自動的に個人別にも転写されるソフトが使われ、1か月分纏めて個人別に打ち出され個人別介護記録となっている。この個人別介護記録はご家族にそのままお渡ししており、ご家族も安心と思われる。マニュアル類もパソコンに完備している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携では近隣の上飯田地域ケアプラザから行事案内を頂き参加したり、自治会の草むしりや行事(神社、お寺、ドンド焼き等)などに参加し、子ども神輿も前まで来てくれる。ボランティアではフラワーアレンジメントなどを教えて来て頂いている。防災についても自治会から協力のお話を頂いている。泉の郷本部では夏祭りなどを行い地域の方もお招きし、グループホームとしても利用者共々参加し楽しんでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を事業所の理念としている。地域密着と云う面では泉の郷グループとして地域に浸透しており地域への貢献は出来ていると云える。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議などで理念の浸透を図っている。日々の介護の中で、それを喚起するようにしている。		機会あるごとに職員には「理念」及び「理念の実践」を徹底している。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へは入会していないが、自治会の草むしりや行事(神社、お寺、ドンド焼き等)などに参加し良い関係が維持出来ている。子ども神輿も前まで来てくれる。防災についても自治会から協力のお話を頂いている。泉の郷本部では夏祭りなどを行い地域の方もお招きし、グループホームとしても利用者共々参加し楽しんでいる。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については各ユニットで作成したものを管理者がまとめ、再度各ユニットリーダー経由で周知した。各ユニットリーダーは項目の必要性を認識し、ユニット毎に取り組みを開始している。外部からの第三者の視点は重要と考えており、ガラス張りの介護、普段のケアが平均的に、日常的に行われる体制固ためを進め	○	外部評価を活用し体制固ためを進めている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、今までは同一法人、同一地域のグループホームは共催で良いとの市の了解が得られているのでグループホーム泉の郷と共催している。グループホーム泉の郷上飯田としては個別の運営推進会議が必要と考えているのでグループホーム泉の郷とも話し合っ行ってきたい。	○	必要なら単独開催を検討する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に、生活保護のご利用者の関係で区の担当者との連携がある。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1日の介護記録をパソコンに入力する体制が出来ていて、この日別介護記録が自動的に個人別にも転写されるソフトが使われ、1か月分纏めて個人別に打ち出され個人別介護記録となっている。この個人別介護記録は金銭出納帳などとともにご家族にそのままお渡ししており、ご家族も安心と思われる。また、健康状態の異変については、その都度連絡を取っている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談ファイルを作成して、記録と同時に即応体制を設けている。法人本部とも連絡を取り合ってその解決に当たっている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職者があり、利用者へのダメージが及ばないようにチームケアを徹底している。各ユニットリーダーを中心としシフトを敷いている。		今後も継続して要員確保を実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や資格取得の支援などの取り組みが法人の中の親睦会組織で取り組まれ、今年当ホームで3人のケアマネの合格者を出した。プリセプター制度を導入して、新人教育を行っていきたいと考えている。	○	今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議やケアマネ連絡会や学術交流などを通じて、勉強会や相互交流などの機会が増えている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	各ユニットとも基本的な取り組みは理解している。本部には特養、ケアハウス、居宅介護、訪問介護、デイサービス等があり、相互の連携が取れ、グループ内各機能の有効活用を図っている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症は関係障害を伴う疾病でもある。その関係障害がBPSDをさらに増幅させる傾向にある。したがって関係障害は関係の中で修復していくことだ、と三好春樹さんは述べている。各ユニットとも、それぞれの関係の修復に努めて、新しい関係を築いている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各ユニットの職員の姿勢は「一人一人のご利用者様の思いや暮らし方の希望や意向を把握する」ことに努めている。	○	介護の専門職として、資格を持つ、持たないは別として、ケア・マネジメントの学習の強化を推し進めたい。その体制づくりに取組む予定。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者をアセスメントし、課題を見出し、ケアプランを作成していく系統だったケアプランの確立を目指している。	○	今期、ケアマネの資格を持つ職員が二人、資格試験に合格した職員が三人と、ケアプランを作る知識と専門性を持ち合わせた職員が増えた。ケアプランに重点を置くケアができる体制固めが可能になってきている。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各ユニットとも、ご本人、ご家族、必要な関係者と話し合っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ADLの変化、ご家族の要望などを加味して、法人の系列の施設への転移が可能だし、同系列のデイサービスに通ったり、車を借りて移動の助けにすることも出来る。本部には特養、ケアハウス、居宅介護、訪問介護、デイサービス等があり、相互の連携が取れ、グループ内各機能の有効活用を図っている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に受診し、往診もしていただいている。又、ご家族の希望や了解のもとで、ご利用者の通院受診をしている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状、医療連携体制は取っていないので、その前提でご家族にも説明をしている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員のスピーチロックなど機会あるごとにいろんな場面を使いながら教育している。又外に出す、学術論文や研修に使う資料を使用する場合は、特にご家族の了解をもとめ、記述への配慮も最新の注意を払っている。		職員の入れ替わりがあるため、新人教育でこれを細かく教えていくことが求められる。プリセプター制度を導入しながらプライバシーの保護の徹底を図っていく。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各ユニットできる限りご利用者様のペースに合わせて行っている。ご利用者のペースに職員があわせることの大事さの教育を行って行く。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、一緒に食べるようにしている。後片付けは、ご利用者様に手伝ってもらっている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂好きにご利用者様に対しては、その都度声掛けして体の状態を聞きながら、希望にあわせた入浴をしてもらっている。又、季節に応じて柚子湯や菖蒲湯に取り組んでいる。		お年を召すと、入浴を億劫がるご利用者もいる。週2回以上の入浴を心がけて、声掛けや誘導をしているが、なかなか拒否が強く、その対策に苦慮している。引き続き粘り強く取り組んで行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者様には、テーブル拭きや部屋のお掃除、食器洗い、ゴミだしなど、出来ることはやってもらうよう、各ユニットは取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が多少悪くても1日1回は散歩に出かけている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関については日中鍵を掛けることは無い。夜間は、防犯上遅番が帰る頃、鍵を書けることにしている。部屋については、就寝時、中から鍵を掛けてお休みになる方もいる。門については、設立当初からロック式になっている。		BPSD(周辺症状)として、帰宅願望や徘徊の為、無断で外に出て行くご利用者様は、今のところいない。万一、BPSDが観られたときは、職員のほうが先に察知し、1対1の対応で外に連れ出して気分の転換を試みたりするので、ロックの必要性は感じていない。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成している。又、年に1回学習や訓練を本部の規格に合わせて実施している。災害時には、町内会の手助けと協力がぜひとも求められるので、災害時に向けての利用者名簿を町内会長に届けている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が難しい方にはロミやゼリーを使って工夫をしている。又、医療と相談しながら食事量の少ない方には、ラコール等で補給したり、各ユニットご利用者様の状況を把握しながら対応している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット、それぞれに工夫が成されている。お花を飾ったり、壁には、習字の作品や工作した作品を飾ったり、季節季節の作品が随時飾られている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やお布団が置かれ、ご家族の写真が飾られ、又、仏壇が置かれ、毎日花の水を変えている光景が見られる。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

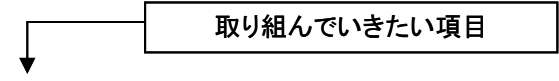
○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 泉の郷上飯田
所在地 (県・市町村名)	245-0018 横浜市泉区上飯田町1260
記入者名 (管理者)	(管理者) 前田 知世
記入日	平成20年3月6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を事業所の理念としています。地域との係り方についてはまだ暗中模索の段階です。		
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議などで理念の浸透を図っているが、ややもすればお題目に終わっているくらいがあり、日々の介護の中で、それを喚起するようにしている。	○	機会あるごとに職員には「理念」及び「理念の実践」を徹底していきたいと思います。
	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの運営理念を利用案内の説明文書及びホームの見やすい所に明示し、かつ入居者様やご家族などにわかり易く説明しています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	節目時の挨拶、散歩中の挨拶、などは必ず行っていますが、当ホームに遊びに来ていただくという交流は、今のところ皆無です。		
	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への入会を希望しましたが、会長より、「入会すれば役員を引き受けたり、班長をやらされたりするので、むしろオプ参加、その時々々の行事などの時に参加する形がいいのではないか」との助言をいただき、係り方を模索しているところです。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今のところ実施していません。		
---	--	----------------	--	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	特に外部評価での各項目について、各ユニット・リーダー達も理解していて、普段のケアの中でも生かしています。系統的に取り組むにはまだまだ体制が整っていません。	○	外部評価には、特に関心を抱いています。ガラス張りの介護を実現するためにも、ここで指摘されている事柄の実現に向けて、体制づくり、と計画を実現していきたいと思います。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への参加を本年から始めたばかりで、具体的な活動は、今後委ねられます。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に、生活保護のご利用者さまの所に区の担当者が訪問され、現況調査をされています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部、内部研修を通じて学ぶ機会を得ていますが、具体的事例については、まだぶつからないため、知識だけに終わっています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は身体及び精神ともに防止していくのが、法人の理念でもあります。その理念を職員は理解して日々の介護に努めています。しかし、忙しいを理由として、時として、スピーチロックを演じる職員もおりその都度戒めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	従前の管理者がそうしてきたように、今後もそれを堅持していきます。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見・不満・苦情は、各ユニットの職員、リーダーが受止めそれを管理者に報告しながら検討、改善に努める体制をとっています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、ケア日誌、金銭出納帳などをご家族に郵送し、また、健康状態の異変にひついては、その都度連絡を取っています。各ユニット同じ対応をしています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談ファイルを作成して、記録と同時に即応体制を設けている。法人本部とも連絡を取り合っその解決に当たっています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の施設長には、年に2回、自己申告書の提出が求められます。その際、職員の意見や提案を申告することができます。また、平素でも、パソコンを通じて運営者とも意見、提案ができます。それらは、運営にも反映されることがあります。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各ユニットリーダー及び管理者がその調整に当たっています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職者が相次ぎ、職員の確保が難しい現状で、各ユニット間の職員の移動や応援手伝いは避けられません。リーダーを中心とする核の部分については、移動は避けています。また、応援手伝いのシフトは、日勤業務にだけしています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修や資格取得の支援などの取り組みが法人の中の親睦会組織でとくまれ、今年当ホームで3人のケアマネの合格者を出しました。</p>	○	<p>プリセプター制度を導入して、新人教育を行っていきたいと思います。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議やケアマネ連絡会や学术交流などを通じて、勉強会や相互交流などの機会が増えています。しかし、まだ始まったばかりで、活動は軌道にはのっていません。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人としては親睦会組織が懇親会や旅行を企画しており、職員同士の親睦や友好に寄与しています。</p>	○	<p>ユニット内やグループホーム内の交流や親睦も企画し、たとえば、バーベキュー大会、新人歓迎会、忘年会、新年会などを取り組んで生きたいと思います。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎月職員会議の場を通じて、各ユニットのケアで、皆の模範となるサービスやケアが特筆されるものを表彰する制度を設けることによって、介護の質を向上させる糧としています。</p>		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>今のところ、退去者も出ていませんので、したがって、新入居者さまを迎え入れる体験が無いため、理念としての理解が浅くありません。失し、そのような機会がめぐってきました時には、やはり、ご本人さまの不安、求めていることに傾聴し、それを受止める姿勢と努力は基本的なセオリーですので、そのように実行していきますし、各ユニットにも求めていきます。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>同上</p>		
<p>項 目</p>		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p>(○印)</p>	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居者の退所が無い場合新しい入居者を受け入れる機会がありませんが、その機会がありましたならば、やはりご家族、ご本人さまの一番必要としている支援を第一義的に考え、取り組むのが基本的なセオリーと考えます。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	各ユニットとも基本的な取り組みは理解しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症は関係障害を伴う疾病でもあります。その関係障害がBPSDをさらに増幅させる傾向にあります。したがって関係障害は関係の中で修復していくことだ、と三好春樹さんは述べています。各ユニットとも、それぞれの関係の修復に努めて、新しい関係を築いているようです。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を巻き込んだ会食、行事を各ユニットとも取組んでいて、ご家族との関係は良好なものがあります。一方、ご利用者様とも遠ざかっておられるご家族もあり、関係の構築に温度差が見られます。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	メールや手紙、毎月1回は1人1人分のケア記録をご家族に郵送し、ケアの仕方を含めて、見ていただいています。このことを通じてご本人様とご家族様とのよりよい関係につながればと願っています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係が途切れないよう心がけていますが、ADLの低下により、その方の認識すらできなくなってきた時、逆に馴染みの方から、遠慮されたり、敬遠されたりする場合があります。苦慮しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ユニットによっては利用者同士のトラブルが絶えないところがありますが、やはり、職員が仲裁に入ることによって、そのトラブルを回避しています。しかし、ときには、職員の入り方によってさらにトラブルが増幅する場合も、報告されています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまでの退去事例は入院の長期化による場合の他、暴力的で、共同生活に難点があるため退去願ったという事例を聞いていますが、現在のところ、退去に関する事例はでていません。出てきた場合には、各ユニットとも記載している内容を実施していきます。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各ユニットの職員の姿勢は「一人一人のご利用者様の思いや暮らし方の希望や意向を把握する」ことに努めています。その内容には温度差が感じられ、共有される点では難点が見られます。	○	介護の専門職として、資格を持つ、持たないは別として、ケア・マネジメントの学習の強化を推し進めたい。その体制づくりに取り組む予定です。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートのファイルができていない現状があり、入居後の現状把握しか見られていないケースもあります。	○	今一度入居時に作成すべきフェイスシートの整理や家族、関係者からの聞き取り調査を通して、情報の共有化の基盤を作っていきたいと思います。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各ユニット、各職員が、ご利用者さまの心身の状態やADLの状態などを総合的に把握するように努めているようですが、その捕らえ方には温度差が見られ、共有化や系統だった対策へとつながる現状とは言い難いものがあります。	○	ご利用者さまのアセスメントの学習(視点、その生かし方、共有など)が求められ、実践が求められます。これに取り組んで生きたいと思います。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーの資格をもつ職員が継続的に配置されなかったためか、ご利用者さまをアセスメントし、課題を見出し、ケアプランを作成していくという、系統だったケアプランがなされていない現状があります。日々の業務が、マニュアルに基づくケアが先行し、ケアプランに基づくケアが省みられていないのが弱点としてあります。	○	7期、ケアマネの資格を持つ職員が二人、資格試験に合格した職員が三人と、ケアプランを作る知識と専門性を持ち合わせた職員が増えつつあります。今後、業務マニュアルケアから脱却し、ケアプランに基づくケアができる体制作りが可能になってきています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各ユニットとも、ご本人、ご家族、必要な関係者と話し合っているようですが、また、それを加味した計画を作成してはいますが、これが、三ヶ月ごと、六ヶ月ごと見直されているかといえますと、ユニットによっては温度差が出ています。	○	どちらかというと、業務間にあるに基づくケアが先行し、アセスメントに基づくケアプランが省みられていないのが現状。絵に描いたモチに成り下がっているところに問題と課題があります。誰もが見て、わかり易く、活用しやすいケアプランの作成、整備、に取り組みたいです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ユニットとも、パソコンを利用して毎日のケース記録を個別に作成し、又、申し送りやノートを通じて情報の共有化に努めています。これを介護計画にまで反映させるまでにはいたっていません。	○	日々の介護がマニュアルに沿ったものになっていて、介護の中からアセスメントを重視したケアプランに沿った介護とは、遊離したものになっているきらいがあります。したがって日々のケース記録も系統的に活用されるよう、記録の整備などを進めて生きたいと思います。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ADLの変化、ご家族の要望などを加味して、法人の系列の施設への転移が可能ですし、又、同系列のデイサービスに通ったり、車を借りて移動の助けにすることも出来ます。そういう支援が出来ます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生の体験学習の場として開放しています。又消防署とも協力して急救時の対応や、災害時の対応について講習を受けたり、訓練に参加しています。また、区の催し物(作品展への出品)に参加したりしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人本部のデイサービスを活用することはありますが、他のサービス事業者との話し合いや、ケアマネジャーとの交流などの取り組みは、まだ軌道にのっていません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご家族の希望に応じて成年後見人制度などの相談は受けることがありますが、地域包括支援センターとの協働にはいたっておりません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ユニットとも協力医療機関に受診していますし、往診もしていただいています。又、ご家族の希望や了解のもとで、ご利用者様の受診をしています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	看護職員の配置がされていないので、看護職との協働は不足されていません。	○	往診時(内科、皮膚科、歯科、眼科)にきてくれる看護師さんとのつながりをよくし、医師との橋渡しや、相談を密にふかめていきたいと思ひますし、法人本部の看護師さんとも密に連絡を取り、健康管理に役立てたいと思ひます。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ご家族の希望に応じて成年後見人制度などの相談は受けることがあります。地域包括支援センターとの協働にはいたっておりません。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族立会いの上での情報交換や相談が前提条件となる場合が多いので、ご家族との信頼関係を築きながら、同伴を求め、進めていく方法をとっています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	検討中		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	検討中		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	そのケースが出てきた場合は、当然その様に対応するでしょうし、努力します。現段階では、そのケースはありません。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	職員のスピーチロックなど忙しさにかまけて、見られることが		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ありますが、機会あるごとにいろんな場面を使いながらいさめるようにしています。又外に出す、学术论文や研修に使う資料を使用する場合は、特にご家族の了解をもとめ、記述への配慮も最新の注意を払っています。	○	職員の入れ替わりがあるため、新人教育でこれを細かく教えていくことが求められます。プリセプター制度を導入しながらプライバシーの保護の徹底を図っていきます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各ユニットとも、ご利用者様の希望を汲み取ったり、自己決定の原則を重視して取り組んでいるようですが、時間が無いのを理由にして、職員の方が気を利かせてやってしまう場面もみうけられます。	○	日頃からご利用者さんに寄り添い、その意思を確かめ、信頼関係を築き、時間が掛かろうとも、それを見越して待つ職員側の体制作りを課題として取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各ユニットできる限りご利用者様のペースに合わせてやっているのですが、時として職員の業務の都合で、これにご利用者様が引きずられていく場面も見られます。3時頃にお風呂から上がってきますともうパジャマ姿になっている場面があります。	○	職位の都合で、ご利用者様が業務にあわされた生活を強いられていることが本当の介護の質を高めていることになるかを職員に反芻させ、ご利用者様のペースに職員が合わせることの大事さをきずかせる教育を目指したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は定期的に近所の店に言っています。ただ、朝、寝起きの悪いご利用者様が、髪をとかさず、洗面もせず、食卓に着く姿を見かけます。	○	身だしなみのケアは。日々の介護の中で職員には徹底させようと考えています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットともご利用者様と一緒に食事作りをするということはありません。食事は、一緒にいただいています。あとかたづけは、ご利用者様に手伝ってもらっています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を飲むご利用者様は現在いません。タバコを喫煙される方はいます。喫煙場所を設けて喫煙してもらっています。各ユニット、それぞれご利用者様の要望を聞いてその都度取り組んでいます。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表や水分表を用いて、排泄パターンを把握し日々の排泄ケアに役立っていますが、便意、尿意の失われたご利用者様に限られる傾向にあります。	○	自立されたご利用者様も含めて食事、水分、排泄チェックは必要かと思われます。又、どんなに介護度が高く、寝たきりであっても、立位が取れるなら、トイレでの排泄を取り組みたいと思います。
	○入浴を楽しむことができる支援	お風呂好きにご利用者様は少ないです。その都度声掛けして		お年を召すと、入浴を億劫がるご利用者様もいらっしゃる

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂好きなご利用者様に対しては、てのり程度戸掛りしし体の状態を聞きながら、希望にあわせた入浴をしてもらっています。又、季節に応じて柚子湯や菖蒲湯のとりくんでいます。	○	ます。週2回以上の入浴を心がけて、声掛けや誘導をしておりますが、なかなか拒否が強くて、その対策に苦慮していますが、引き続き粘り強く取り組んで生きたいと思いません。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜20時頃には皆さん床に疲れますが、やはり1時頃まで、何回かトイレに起きていられています。深い眠りに付くのは、1時頃から4時頃の間です。	○	昼間の生活をもっと活動的なものにしていきたいと思えます。リハビリテーションの導入を考えています。

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者様には、テーブル拭きや部屋のお掃除、食器洗い、ゴミだしなど、出来ることはやってもらうよう、各ユニットは取り組んでいます。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各ユニット、それぞれのご利用者様の事情に合わせて、お小遣いを渡したり、それで職員と買い物に行ったり、しています。又、金銭管理の出来ない方については、職員が、預り金として管理しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が多少悪くても1日1回は散歩に出かけています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	去年は、箱根にバス旅行しています。又、桜の咲くころは、桜の名所にドライブしています。もちろんご家族にも参加をよびかけています。	○	介護度の重度化に伴い寝たきりや閉じこもりのご利用者様に対する企画が立てられていません。医療との連携で取り組みを進めてみたいと思えます。、

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各ユニットとも、これは十分対応しています。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	各ユニットとも取り組みがなされています。又ご家族との食事会も毎月取り組まれています。	○	ご利用者の認知度が深まるに連れ、知人の方々が、面会するのをはばかって、遠のくことがあります。対応に苦慮しています。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	あからさまな身体拘束は見られませんが、スピーチロックだとか、精神的規制、威圧は時として見られます。アンケート調査や、意識調査などを通じて身体拘束や精神的拘束、規制をなくしていく取り組みをしています。	○	引き続きこの取り組みを継続していきたいと思います。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関については日中鍵を掛けることはありません。夜間は、防犯上遅番が帰る頃、鍵を書けることにしています。お部屋については、就寝時、中から鍵を掛けてお休みになる方もいます。門については、設立当初からロック式になっています。	○	BPSD(周辺症状)として、帰宅願望や徘徊の為、無断で外に出て行くご利用者は、今のところいません。まんいち、BPSDが観られたときは、職員のほうが先に察知し、1対1の対応で外に連れ出して気分の転換を試みたりしますので、ロックの必要性は感じておりません。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は、各ユニット、3人体制をとり目の届く体制になっていますが、それでも、庭に出てこられるご利用者様もいられるので、他のユニットの職員が気が付いたときなどは、声掛けしながら、そのユニットに連絡を入れ所在確認を行なっています。また、やかんは、2時間から3時間後との巡視を行なっています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	あるユニットのご利用者さまは、夜間職員の目を盗んで台所には入り、お砂糖をなめるこういがあります。たいおうとして、お砂糖を目の付くところに置かないようにしていますが、なぜその様な行為になるのかのカンファレンスを行ないながら、原因を探り根本的な対策と解決を図る努力を続けています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	本部主催の内部研修に参加しながら、事故防止の学習を深めています。なかなか同じような事故は繰り返されるばかりでなくなりません。	○	事故は避けられない一面もありますが、やはり一つ一つの事故について、カンファレンスをおこない、その原因と対策を積み上げていって、共有化する作業を怠らないことだと思います。粘り強く実施していきたいと思います。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師が配置されていない中、医療的には無防備な中であって、職員は、急変や事故発生に不安と困惑を感じながら、特に夜勤帯はその業務についています。緊急時のマニュアルはありますが、いざその場で冷静沈着な対応ができるか、かなり心配なものがあります。	○	職員一人ひとりが、確実にその対応ができるよう、日常的にチームワークや関係プレーを心がけ、又系統的な講習・訓練を常時取り組んで生きたい。
	○災害対策	「災害対策マニュアル」は作成されています。毎年1回学習や		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルは作成されている。又、年に1回字首や訓練を本部の規格に合わせて実施している。災害時には、町内会の手助けと協力がぜひとも求められるので、災害時に向けての利用者名簿を町内会長に届けています。	○	まだまだ頭の中の訓練でしかなく、きめ細かな対応、迅速な対応ができるように年4回以上の訓練を実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	各ユニットは、ご家族の綿花維持や、こられないときには、月1回ケース記録と共に郵送し、報告や対応策を意見交換しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日、体重測定は月に1度測定しています。又、体調の変化が見られたときには、申し送り時やノートや日誌に記載して共有し、ご家族にも連絡し、医療との連絡・搬送を行っています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の配置がなされていないため、各ユニット、受信の際や、薬剤師からの説明を通じて、薬に対する知識を個々に得、また、薬剤に対する辞典を事務所に設置しているので、必要に応じて勉強しているようですが、それを共有している場合もあれば、ない場合もあり、職員個々の薬に対する知識には千差万別があるようです。	○	これまで生命にかかわる誤薬事故は起きていませんが、薬の取り違え、飲ませ忘れ、服薬確認などの誤薬が後を絶ちません。本部看護師や薬剤師を招いた講習会の企画を本部と共同企画をして、誤薬事故防止と薬の知識の均一化を図りたいと思います。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を利用しながら、各ユニット取り組んでいます。自立の方の便秘対策は、自己申告にゆだねられているため、ややもすれば見過ごされている傾向があります。	○	排泄ばかりでなく、食事量、水分量、下剤の有無など一緒に記録し便秘対策に役立てて生きたい。又、寝たきりといえども、可能であれば、二人介助で、又立位が取れるのであれば、トイレでの排泄介助をとりくみたい。排泄の介助としておなか擦りなどのケアも実施していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各ユニット、マニュアルもとづいて、毎食後、口腔ケアを実施している。自立の方には、声かけで、歯磨きは本人に任されていますが、ブラッシングの程度はまちまちなようです。義歯の洗浄は、週単位で薬剤で洗浄しています。又、定期的な歯科往診があります。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が難しい方にはトロミ、やゼリーを作って工夫をしています。又、医療と相談しながら食事量の少ない方には、ラコール等で補給したり、各ユニットご利用者様の状況を把握しながら対応しています。		
	○感染症予防	法人自体が毎月安全衛生対策委員会を開いて、感染予防		

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	や対応の協議を行っています。それを職員会議等で報告しその徹底を図っています。各ユニット、手洗い、うがい、リネン交換、布団干し、掃除をマニュアルに基づいて行っています。ノロウイルス対策としては、毎日、手すり、いす、トイレなどを漂白剤を使って拭き掃除しています。インフルエンザの		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	各ユニット、食器は洗剤を使用して荒い、乾燥機にかけて衛生を心がけていますが、調理器具、布巾は漂白剤を使用して衛生管理しています。食材は週3回買出しに出かけ、食材の吟味をしながら購入しています。	○	除菌剤として塩素系のキッチンハイターなどを使用していますがその使用方法が説明書どおりになされていないことが見受けられます。薬剤を含めて、使用方法に従ったコンプライアンスの理解と遵守を実践していきたいと思ひます。

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	各ユニットの特性に合わせて工夫がなされています。たとえば、玄関の周りに草花を植え、清掃に心がけたり、1階では、これを通して道行く方々とのコミュニケーションにもつながっています。	○	しかし、ご利用者様を巻き込んだプランタンづくりが薄れ、職員の業務になってしまったり、職員も投げ出して、玄関前が、車椅子や、プランタンや、鉢や、モップなどが無造作に置かれ、埃や枯れ葉が吹きたまっている光景も見られます。季節感と清潔感をご利用者様と共有する活動を目指したいと思ひます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット、それぞれに工夫が成されています。お花を飾ったり、壁には、習字の作品や工作した作品を飾ったり、季節季節の作品が随時飾られています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニット、それぞれの工夫が成されています。たとえば、玄関付近には、いすが置かれています。喫煙の場所であったり、一休みする場所として利用されています。又、リビングの一角には、ソファコーナーが設けられ、TVや談話ができるようになっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やお布団が置かれ、ご家族の写真が飾られ、又、仏壇が置かれ、毎日花の水を変えている光景が見られます。		
	○換気・空調の配慮	各ユニット、それぞれに工夫が成されています。たとえば、玄関付近には、いすが置かれています。喫煙の場所であったり、一休みする場所として利用されています。又、リビングの一角には、ソファコーナーが設けられ、TVや談話ができるようになっています。		

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>冬場は、インフルエンザ対策対策もめつし、湿度を保つ対策もされています。保湿器や濡れタオルを廊下やお部屋に干したりしています。室温コントロールは事務所で行っていません。居室は、リモコンで調節しています。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>浴槽内には、滑り止めを置いています。又トイレ、廊下、居間、食堂などは、手すりを設けています。洗濯物などは、お部屋で手の届くところを選んでもらって干していただいたり、ベランダにも干すことができます。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室やトイレに目印が必要なご利用者様には、ご本人の書かれた絵や作成したものを張って目印としたりのくふうもしております。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダで鉢植えを楽しんだり、洗濯物やお布団を干したりして活用しています。庭や、玄関には、花壇があり。草花を植えたり、水遣りを楽しんだりしています。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. ケアプランに基づくケアの実践。 2. 安定した職員の確保と新人教育を含めた教育と研鑽。 3. ガラス張りの介護の